

### 第3回 小樽商科大学 経営協議会 議事要旨

日 時：平成19年11月8日（木）14：00～15：20

場 所：第二会議室

出席者：学長，山本理事（総務・財務担当副学長），和田理事（教育担当副学長），

学外委員（井上委員，篠崎委員，鎌田委員，作田委員），学内委員（奥田副学長，

欠 席：榊原委員（学外），遠藤委員（学内）

陪 席：中村理事，池田監事

審議に先立ち，議題3として「国立大学法人小樽商科大学における余裕金の運用に関する取扱要項の改正について」を追加する旨発言があり，併せて第2回（6月18日（月））開催の経営協議会の議事要旨の確認を行った。

#### 議題1 役員の報酬及び職員の給与の支給基準について

##### （審議資料1）

学長より，本学における本年の人事院勧告に対する取扱いについては，9月25日開催の役員会において審議を行い，役職員の給与の支給基準については国家公務員に準拠する旨説明してきたこれまでの経緯を踏まえ，今回も国家公務員に準拠して対応する旨の方針を決定した旨説明があった。

次いで，国家公務員の給与については，10月30日に閣議決定がなされ，現在，国会に「国家公務員の一般職の職員の給与に関する法律」の改正案が提出され，法案の成立を待っている状況であり，国会において法案が成立した場合には，審議資料1のとおりに本学職員の給与改定を行うこととしたい旨併せて説明があった。

続いて，改正内容について，審議資料1に基づき，総務課長から説明後，審議に移り，審議の結果，承認された。

#### 議題2 平成19年度補正予算(案)について

##### （審議資料2-1，2-2，2-3）

学長より，本件については，平成19年度の小樽商科大学予算において，学長策定による予算編成方針に基づき予算案を作成し，平成19年3月16日開催の役員会及び経営協議会の議を経て，決定した旨説明があった。

併せてその後，平成19年度中において喫緊に対応せざるをえない事業や人事院勧告等による人件費の増など，当初予算では見込み難い事由が新たに発生したことにより，本学の規程に基づき，このたび補正予算（案）を編成した旨説明があった。

続いて，審議資料2-1，2-2，2-3に基づき，財務課長より説明後，審議に移り，審議の結果，承認された。

承認後，学長より，本件については，本日開催の役員会の承認を経て，直近の学部・大学院合同教授会に報告する旨説明があった。

なお、委員より、現在、車椅子などを利用して通学している学生は、在籍しているのかとの質問があり、現在は在籍していないが、過去に受験生を受け入れたことはある。今後、入学する可能性があるため、そのための準備をしたい旨説明があった。

#### 【追加議題】

### 議題3 国立大学法人小樽商科大学における余裕金の運用に関する取扱要項の改正について

#### （審議資料3）

学長より、本件については、現在まで本要項に従って余裕金に関する運用しているところである旨発言があり、この度、政府の方針を確認したところ、運営費交付金の運用が可能となったため、本要項の改正を行う旨説明があった。

続いて、審議資料3に基づき、財務課長より説明後、審議に移り、審議の結果、承認された。

承認後、学長より、本件については、本日開催の役員会の承認を経て、施行する旨説明があった。

### 報告事項1 平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果について

#### （報告資料1-1, 報告資料1-2）

学長より、本件については、本年6月18日（月）付けの本会議において、承認を受け、6月末に文部科学省に提出した旨説明があり、その後、ヒアリングや文部科学省の国立大学法人評価委員会総会の審議を経て、去る10月5日（金）に報告資料1-1のとおり公表された旨報告があった。

次いで、学長より、国立大学法人評価委員会総会の審議に先立ち、評価結果（原案）について、意見照会があり、本学としては、報告資料1-2のとおり、申立てを行い、結果は、本学の申立てが認められないものの、本学の「申立内容」については、「申立てへの対応」とともに、文部科学省から公表される予定である旨併せて説明があった。

### 報告事項2 平成19年度予備費の執行について

#### （資料なし）

学長より、本件については、平成19年度予算編成において、不測の事態に備えるための全学的な費用として、予備費を1千万円計上して旨説明があった。

次いで、先般、事務棟全体が断続的に情報ネットワークシステムが不通になるという事態に陥り、復旧を試みた結果、装置の交換が最善の処置と判断し、装置の交換を予備費より執行した旨報告があった。

（参考）

執行内容：事務棟グループスイッチの交換

執行額：210万円（予備費残790万円）

復旧日時：9月12日午後

### 報告事項3 第4回～第11回教育研究評議会について

#### （報告資料3）

学長より、本件については、特に本学の国際交流に関する議題について報告する旨説明があった。

次いで、報告資料3に基づき、「カナダ（ウィニペグ大学）及びシンガポールの大学（シンガポールマネジメント大学）との協定」（第5回：平成19年7月4日開催）の及び「韓国延世大学原州キャンパスとの協定」（第11回：平成19年10月31日開催）について、協定に至った経緯や協定締結の状況に関し、報告があった。

### 報告事項4 最近のピックアップについて

#### （参考資料）

学長より、本学の最近の動向について、参考資料【新聞記事】の以下の記事について、紹介があった。

#### 【主な紹介記事】

●室蘭工大との包括協定

→P39～P42, P44, P47, P49, P52, P69

●北海道薬科大学との包括協定

→P54～P57

●「100周年記念ロゴマーク」と「商大君」・「100周年横断幕」

→P12, P13, P17, P37, P43

●新聞の連載（北海道新聞（7/31～8/4日 計5回）

→P24～P26, P28, P29

●一日教授会

→P63, P66, P71, P72

### その他

#### 1. 学生寮の検討状況について

中村理事より、学生寮に関する検討状況について、以下のとおり報告があった。

- ・今年6月から創立100周年記念事業実施委員会のもとに学生寮検討委員会を立ち上げ、他大学及び民間の学生寮を調査した。
- ・本学が運営主体となり、100周年記念事業として、建設することを前提としている。
- ・当初は、昔の寮のスタイル（3人から4人部屋、共同トイレ・風呂）を想定していたが、下宿等に住んでいる本学学生200名程度にアンケート実施した結果、個室で、ITやセキュリティを完備したワンルームタイプの寮のニーズが高いことが判明した。

- ・学生のニーズを踏まえ、土地は、大学の敷地を利用し、150人程度の寮を建設すると試算したところ、建設費用が8億円程度かかることが分かった。
- ・寮費を65,000円に設定し、食費20,000円を除き、管理費や水道光熱費、等も除き試算したところ、年間3千万円程度返済可能であり、十分に償還可能であることが分かった。
- ・今後は、学生寮検討委員会ではなく、学生寮建設委員会を正式に立ち上げて、定期的な修繕費や、無担保で銀行から借入れが可能なのか等をさらに具体的な検討に入りたい。
- ・これ以外にも問題が内在している可能性があるため、それらを踏まえ、十分に検討した上で、学生寮建設する・しないの最終的な判断をしたい。

その報告に対し、委員からは、以下のとおり意見があった。

- ・大学が8億円の借入れをすることは大変なことである。建設方法・資金調達方法などを含め、様々な方法があると思うので、十分によく検討した上で、決定して欲しい。
- ・学生寮を建設することは、良いことだと思うが、教育施設として、この寮を位置づけて欲しい。
- ・駐車場等の附帯設備についても、検討しては如何か。

この意見に対し、学長からは、

- ・学生寮の建設に当たっては、建設方法、資金調達方法など、学内外の意見等を参考にしながら、十分に検討した上で決定する。
- ・また、寮の運営方法についても、民間に委託するのか、大学と民間が一体となって運営するのか等、教育施設の一つとして、十分に効果が発揮できる形にしたい。
- ・学生寮を呼び水に、道外からの受験生も集めたい。

旨説明があった。

## 2. その他意見等

☆大学の評価結果について、他国立大学と比較してどの程度のものなのか。また、評価は年に1回なのか。

⇒今年度の新聞報道では、あまり詳しく掲載されていなかったが、平均以上と考えている。

また、大学の評価は、本日の議題のとおり、毎年実績報告を行っている。さらに5年毎（アントレプレナーシップ専攻）と7年毎（大学・大学院）の認証評価と、6年毎の法人評価の3つがある。

☆札幌サテライトの利用をもっと工夫しては如何か。

⇒アントレプレナーシップ専攻の授業の利用等で、施設の利用度は高い。今後、具体的な提案等があれば、検討したい。

☆1日教授会を小樽だけでなく、例えば札幌などで開催しては如何か。

⇒札幌だけでなく、倶知安や、岩内等の開催を含め検討する。但し、毎年は難しい。

☆商大は、小樽の文化である。100周年記念事業は、是非、小樽市とも連携して、取り組んで欲しい。

⇒可能な限り、小樽市と連携して取り組んでいきたい。

☆出来れば、北大や札幌医大の名誉教授らを巻き込んで、商大の名誉教授が中心となつて、市民らを対象に一般教養等を講演する場を作ってほしい。

⇒現状では、難しい。

なお、学長より、次回の経営協議会については、開催する場合、改めて連絡する旨発言があった。

以 上